TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo University of Marine Science and Technology (東京海洋大学)

『フィネガンズ・ウェイク』第４部の概要(1)(p.593 l.1～p.604 l.26)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-04-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大島, 由紀夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/268

Journal of the Tokyo University of Marine Science and Technology, Vol. 4, pp. 77-83, 2008

『フィネガンズ・ウェイク』第４部の概要 (1) (p.593 l.1~p.604 l.26)

大島　由紀夫*

（Accepted Novemver 29, 2007）

The Epitome of James Joyce's *Finnegans Wake* IV (1) (p.593 l.1~p.604 l.26)

Yukio OSHIMA

Abstract: I translated into Japanese James Joyce's *Finnegans Wake* IV(p.593 l.1 ~ p.604 l.26). In some parts I translated it word for word, but in other parts I just give the gist of the sentences or the paragraphs. So in naming the title I used the word 'epitome', not 'translation'. The epitome treats the scene of sunrise in Dublin, and the characters and situations of the hero HCE and his son Shaun.

Key words: Finnegans Wake, Part 4, epitome

[593] 神聖な夜明けだ。神聖な夜明けだ。神聖な夜明けだ。

神はすべての町を呼んでいる。すべての町を夜明けへと呼んでいる。光だ！復活だ。アイルランド人を光が全体に満ちた世界へと呼んでいる。ああ光だ，ああ光だ，ああ光だ！多くの光だ！鳥の声のリズムがどれ程に生そのもののようになりうることか。数多くのことを追い求めよ。東の大洋へと赴け，HCE よ。こちら！こちら！タス通信社，アヴァース通信社，ロイター通信社。【朝のラジオからの声。】煙霧が消えつつある。こちらの市会議員の召使いの方は，朝の連祷をするためとっくに起きています。我々自身で，我々自身だけで進もう！おはようございます，ピアスの固形石鹸をお使いになっていますか。それまでは別の石鹸を使っていましたが，３年前からずっとこの石鹸を使っています。【朝のラジオからの声。】神はすべての町を呼んでいる。すべての町を夜明けへと呼んでいる。昔から存在する，ものをはぐくむ神聖なる自然という最高の富をフィン・マクールの元へ。彼は指導者だ，まさに指導者だ！最も幸福で，最も純粋な，歓呼されたる畏敬の的よ。時が過ぎてゆく。目覚めよ，暁の薄暗さだ，この薄暗さを見よ！フィンについてのバラッドを，彼を卑しめないバラッドにしろ。教会にも伝えよ。我々は最大の喜びをもって，こうした高貴な実践主義者について，偉人はあなたのために存在すると，未来の読者に伝えよう。

雲から海図を広げた太陽光線の手が現れる。

常なる光の種の蒔き手である太陽は，ショーンが便りを届けた夜の過ぎた後に，また売春街でシェムが，ダブリンの夜の世界の主プッア・ズイランサを抱いて，気持ちを高ぶらせた夜の過ぎた後に，耳と口を閉ざした領域の冷たい古びた魂をもった人たちに話しかける。

[594] 流れている！金色の光が！空の改新者，空をともすあなたに燃え木を与えよ。燃えよ！守護者がやってくる！存在せよ！移りゆく空を通る光は最初の言葉だ！ケルト人どおしが再び親類知己となるであろう。天使よ，自己を律する者よ，我々はあなたを選ぶ。我々ダブリン市民はあなたに願い求める。この朝人が眠っているなか，輝く光が導いてくれるまで，我々の家から通じている夜明けの暗がりの道を，夜を破壊する者の道を通る私の後をついてきてほしい。ただただそれだけだ。城づくりの魅力ある太陽の都市ダブリンに至るまでも同様に。どなたかタオルを，また別の方が熱い湯をお持ち下さったならば，お客様がマーガレットさんとか，メアリーさんとか，スミスさんとか，ブラウンさんとか，ロビンソンさんとかお呼びになっている間に，すぐに暖かなデンマーク製の浴槽の中で，このサンライト石鹸をお使いいただけるでしょう。【朝のラジオからの声。】しかし明るくなり始めている。どの場所で，時間はいつから。ちょっとご覧下さい。サンライト石鹸です！お手にとって。【朝のラジオからの声。】敷地内に立ち入る者は，退去させなければならない。私の家に入る者は苦痛を味わう者だ。以前のように。我々は新しくなったのだ。多彩な朝の光の混合は，皆を一つにし，地平線が輝くのを助ける。一条の光がぱっと煌めくーこうしたことが起こるだろう，このとき心はますます浮き立つだろう。アーレン丘の最も鮮やかな薔薇色の頂を持つ，最も心穏やかな民族としての，一般のクラブやパブの客たちの声が聞こえるだろ

* Department of Marine Systemes Emgineering, Faculty of Marine Technology, Tokyo University of Marine Science and Technology, 2-1-6 Etchujima, Koto-ku, Tokyo 135-8533, Japan（東京海洋大学海洋工学部海事システム工学科）

う。そして主人であるエアウィッカーの声も，その後聞こえてくるだろう。そして彼はその小さな店からおずおずと跳び出てくるだろう。暁の光の槍は，フィンガル湾に近いこの我々の平原上にある，藪のなかの大きな円形をなした太陽の都市ダブリンの中心に存在するストーンヘンジに達する。そのストーンヘンジでは，屹立した石である角笛状のケルンが現れ，地峡のアイドルとして楽しげに花のように咲いている。向こうの方では。不気味なかすかな陰鬱なひそひそ声が，その光のなかで汚らわしいものとなる。過去である夜は引込む。朝一匹の野良犬が，グレートデーンということさえあり得る犬が，違法ではないにせよ，クンクン鼻を鳴らしながら侵入するかもしれない。HCE の家に。しかし夜にふさわしい野良犬の方をなぜ優先してしまうのか。雄鳥に暁のコーラスをさせれば，雌鳥がよちよちと駆けつけるのだ。鶏たちは，一回目は女中のために，二回目はポーターのために，一回目と二回目と三回目はウェーターのために，時の声を作る。そうなると，食べられない黄色い肉も，朝には歯も立たない黒い肉と分かる。七面鳥の目をした，海へと急ぐピエロじみたドイツ人の舵手の船員とうまくつきあっていくのに，バーやポンチが役立つが，船員さんよ，頭に酒が残って毒づいていても，[595] 我々皆のバイキングである HCE に会ったら，押し黙ったままでいられるだろうか。死は人を悲嘆させ，生者は震え戦く。しかし朝になれば生あるものは進み行き，丘は語るのだ。目覚めるのか。ホースの丘が海峡を見下ろしながら手足を伸ばしていくにつれ，あたりの景色はくっきりとなる。海の花嫁はすねを高く上げ，父親とのダンスに今まで以上に興じる。ダンスはますます上り調子となる。やがてこの地形が 29 通りの言い方で別れを告げるのを耳にするかもしれない。40 回ウィンクをして，それではご主人様，と言いながら。タップしながら。新しいアイルランドの最高潮に至る長い，長い光線だ。コークにとっても，湯気の立っている魚にとっても，糖菓にとっても，ブイヨンにとっても，油にまみれたソーセージにとっても，ジャガイモにとっても，豚のステーキにとっても，男たちにとっても，リムリックにとっても，ウォーターフォードにとっても，ラウズにとっても，冷たい大気にとっても，リートリムにとっても，ケリーにとっても，カーロウにとっても，レイクスにとっても，オファーリーにとっても，ドネゴールにとっても，ゴルウェーズ州クレアにとっても，ロングフォードにとっても，モナハンにとっても，ファマナにとっても，キャバンにとっても，アントリムにとっても，アーマーにとっても，ウィックローにとっても，ロスコモンにとっても，スライゴーにとっても，ラークスマスのような町にとっても，ミーズにとっても，ウェストミーズにとっても，キルケニーにとっても。一番で。朝よ，真っ先に来い。真っ先に。老ブルートンがナイル川の源流についての自説を引っ込めたのは，我々にとって好ましいことだ。あなたの言うことは完全に間違っている。完全に。【アイルランドについても新しい見方を取り入れることが必要である。】しかしこのようなことは，あなたを退屈させるようなことかね？誰もそうはならない。確かにこれは君の考え方と対立することではないか。全く。でもマアいい。子牛皮紙の古文書『アラン島の公爵』に関して，その蹄鉄，戦車の御者，異種類の二輪手押し車の購入についての記述から，また over，under，since，even if，although，三重接続詞と同じく二重前置詞の語法から，我々は次のことを理解したように思えるのだ，つまり猿の土地アイルランドというあばら屋についての現代の研究が，堅い火山噴出物のなかの小溶岩の分析によって明らかにしたことは，アイルランド人が代々絶望の深みのなかにある間は，気概はここに埋もれたままであるということである。

鼻の穴を大きくして彼は行うであろう。睡眠を。

だから彼を，この愚か者を眠らせよ。彼の店からシャッターが降ろしはずされるまで。彼は安らかな気持ちになれる。完全終止にせよ。

「アヤ，アヤ」という喃語の名前で知られている，自然児であるこの子ども【HCE】は，おそらく最近，いやひょっとしてもっと前に，誘拐されたのであろう。あるいは，奇術で姿を消したのだ。[596] その手際からすればふつうの劇など下らないものだ。乳山羊の市でいなくなったのだ。沢山の乳を出す山羊。落ち行くあの男は。アイルランド人の彼は。略奪され，散り散りにされた人類のドジな創始者。見よ，彼は帰ってきたのだ。フィンの化身となり。復活したのだ。未だ炉端で予言されている者は。実際。HCE は。永久にフィンは，高く積み上げられた干し草の上にいる。頂へと上昇する波のなかで目覚める。昨日の罰を乗り越えて。光の養父。葬式の準備をしているアイルランドにとっての，心の温かさと夢を持った狡知の使い手の第一人者が出てきた。再生の 39 項目を元に。その法規を神聖なものにせよという主の命令により彼は復活したのだ。我々は彼を俗塵にまみれていない人物と考えた。我々の父，無名戦士だと思った。新しいアイルランドの山からやってきた。すべての地主の前に立ったことがある。すべてのロシア人よりも上。ダブリンの狡知な臣民たちの父。ウッドヘンジ，外に展示すべき発掘物。へべれけになるほどスペイン酒を腹に詰め込んで。英国人的性格。地と風と火と海の精。偉大な荒くれ者，砦のなかの砦。ガニング姉妹に囲まれたグンター。誰でも休日に群衆のなかで偶然出会う二，三，四，五人のなかの一人。酒樽の恩恵を受けている。ふたの取れた中樽。羅列的に並べると，二日酔いの人，雄牛のような巨匠，パンフィリウスのように時刻を尋ねながら死ぬ人，雪国出身の醸造用大桶，あの編集者の言う衛生的生活を目指す苦労人。太股の太い人。ご存じのように。全く。助任司祭の喜びと悲しみに語りかける人。この背高のっぽの服装のおかげで，緑，白，青の色合いが混在する。彼は。アイルランドに鶴の声が聞こえないとき。この抒情詩を口にしようとする。人との絆をもたずに，邪魔されることなく，大きな円環を描

きながら，自由に流れるように。自分自身への表象。超自我として。超自我でなければ主義信条として。嗚咽する老人としてではなく若い英雄として。白髪がなくなることもなく，気難し屋でもない。とはいえ彼は奇妙な有色人種のように見える。いくらかどもりがある。しかしダリアを求めるきわめて大きな虫なのだ。捜索する警察の警部のよう。掘り起こされた聖霊でもある。星座の話に出てくるような人物。賢い，巨大な明けの明星が，彼について予知するといったような。彼の言葉は，この話の最後半分を占める短詩と等価。話としてひどく分裂的であり，つぎはぎだらけではあるが。我々の楽しい話を白熱化して終わらせるため。着実に，直裁に，簡潔に，しっかりと，明確に，総合的に，素早く話す。

イエスの加護で！立派なことに，策を用いて彼は先祖代々からの望みを達成した。あのマントの上に落ちた雨滴も，フィンの周りには落ちなかった。結構なことだ！スカンジナビア人の英知は，誰であれ人を新たな人間にする。[597] 見たか。そこに！子羊たる父親【HCE】の腕は，同じことを異なる場所で同時に起こす。それは我々が一晩ぐっすり寝られたということか。そうかもしれない。彼の腕がまさに，彼の腕がまさにうとうとしている。彼の腕がまさに，寝返りをうとうとしている。眠りの世界。【夢のなかの出来事は】千夜一夜物語の中の一番面白い 100 ページにも，くずみたいな大衆の本にも，生じたことがあるとは書かれていない奇妙なことの一つだ！日常生活全体が夢生成の構成要素となる。一つの小さな話に総合化されるのだ。何故か。その理由は一つに，神と，その言葉の中に始まりがあるすべての素晴らしい装置のおかげで，相対立する二つの表象ー西と東，正と誤，眠りと起床などがあるからだ。何故か。二つ目に，南側に左右同形の隣接物，浴室，バザールがあり，北側にはアルコーブ，薔薇園のある，ワルハラのようなモスク風の宮殿が出てくる，すてきな夜のすべてが詩的な光景となっているからである。何故か。三つ目に，一方でベッドや朝食，親との喧嘩，長椅子が出てくる家庭的な内容のストーリーがあり，もう一方には，忍耐強い購入や月並みな方法での購入，分配，熱を帯びた売り買い，競争と敵対，というビジネスに関わる内容のストーリーがあるからだ。何故か。四つ目に，シャバ・サム・ジバナ，即ち生者に復活しつつある死体のように，すべての夢の内容は支柱，即ち日常的手がかりがあり，すべての夢は，つまるところ覚醒時には真実となるからだ。何故か。五つ目に，夢はシステムとして，誰もがどこにいても出す一種の手旗信号だからである。何故か。さあ分からないね。

でも語るのも何と悲しいことかな。

見よ！物を貫くような太陽光線が震えながら射してきた。神の真実の光が！感動的だ！どこからこの光はやってきたのか。この光は無限に熱である。安らかな熱，薔薇色の熱なのだ。風が通る。眠っていた者も，僅かながら過去に不安を覚えながら目を覚ましつつある。そしてその上，素晴らしい驚嘆に満ちた幻影の未来からの光が窓から射し込み，一つの世界となる。旋回する鳥のさえずりが一つの世界であるように。

誰もが感動する。

申し分のない気温だ。カラスはまだ飛んでいない。雲はあるが鯖雲だ。風はあるが，気温は平常に戻っていく。新鮮な大気で湿度は心地よい。クマツヅラが植物の王として咲き誇ろうとしている。皆言っている，実際に皆言っている，本当に皆言っている。あなたは果実を食べたね。ちゃんと言いなさいよ。魚と一緒に食べてしまった。どの果実を食べたのか。[598] そうした皿に盛ったものはすべて何もなくなってしまった。それらは限りなくすべて夢の中にちょうど行ってしまったばかりだし，今まで行きつつあったし，今はもうそこにあるのだ。そしてあなたのズボンになってしまったのだ。消えてしまったのだ。あなたは彼のことがのどから出かかっているね。全然あれから声が出ていないのだけれども。あなたの声は定まった道を進むのではなく，漂うばかりだ。夢遊病者のように虚無へとさまよう。意気揚々と無へと。ほとんど無となったものへと。長い，非常に長い，暗い，非常に暗い，終わりがないような，ほとんど耐え難い夜だった。他にもそうした厄介な夜を，様々に数え上げることができよう。夜は終わったのだ。夜よ，さらば！去るものは去り，来るものは来つつある。昨日に別れの挨拶を，朝に迎えの挨拶を。眠り，目覚めたのだ。それが定めなのだ。上出来だ。よき暁だ。他の暁も。今から一日が。ゆっくりと一日が，繊細なものから神々しいものへと一日は進んでいく。蓮の花，次第に輝き甘美になっていくこの花が開花すると，我々の起きる時間となる。ありがとう，ありがとう，祈ることにしよう。今度会うときまでさようなら。

感謝の気持ちを受け取ってくれ。ありがとう暗闇よ。その中でヨーロッパの端とインドとが出会うのだ。【相対立するものどおしが融合する。】

彼を何と呼ぼうと，彼には神業的なところがある。彼は他者の一部を楽々と取り入れることができるばかりか，他者と合一できる人物なのだ。他者と他者とが合わさるのだ。過去は古臭いものなり，その過去の構図は壁にぶつかり，雲散霧消してしまう。四博士は自分たちが横たわっていたベッドに入りたいと思っている。比較音響学においてはあなたの今日の最後の言葉は力強く，空想を広げて喜びへと向かうだろう。そしてそこで HCE は起きあがる。喜びの言葉には喜びの言葉を，のどが痛くなるかもしれないが。

時間については！

耳を澄ませている宇宙に住む者よ。都市に住む者よ。現在が過去となるとともに過去は現在となり，これがずっと続いていく。その音を以前に耳にして，今も耳にした者は，これからも耳にしてしまうであろう。聞け！３番目の時報の鐘の音で，まさに今までより数時間少ない時間で，我々の偉人であり我々の母親であり我々の夫婦である HCE と

ALP および彼らの子供，彼らの隣人，彼らの隣人の子供である隣人，彼らの家財，彼らの使用人，彼らの親戚 [599]，彼らの紆余曲折，彼らのものであったし，あるし，これからもあるであろうあらゆる物事にかかわるこれからの時代，これからの年，これからの月，これからの一日の数十分間の幕開けとなるであろう。

ありがとう。彼らの時という具合か！でも何時に【原文の発音はウェース　オ　クラーク】。

鐘とともにだって【原文の発音はウィサ　ア　クロンク】。小道だ！彼らが造った小道が見えないか。天上で不始末をしでかした我々の祖先が造った道が。雌牛，雄牛，虎，ライオン，象が，のどの渇きが彼らの食料だったときさえも，凶暴なテンがこっそり出てくる草場を，４本の蹄で踏み固めて素晴らしい道を造ったのだ。この道に我々はいる。言っていいものなら言うが，昔の環境は徐々に失われつつあるが，しかしそれにもかかわらず，この土や水の存在する場所【道】が，厳かな爆発的誕生，厳かな結婚，厳かな死，神の摂理が断続的に生じる中で，いついつまでも存在し続けたことで，フィンの時代に富をもつべきかもたざるべきかの強いためらいがあった後，この場所，今の時代に，多少なりとも安定した経済的，生態的，平等的均衡が保たれている中での，宗教的，軍事的，婚姻的，金融的，地形学的組織形成が元となった有機的な社会の実体が可能になったのであり，必然的に生じたのだ。こうしたことを示しつつ我々はここにいるのだ。サアサア，私にとっての眠りの神モルペウスよ。無防備な格好であってはならない。あなたは腹にたらふく詰め込んだばかりなのだな。碇を降ろした船だ。それに等しい。見る価値はある。人々よ，ご丁寧にも大変ありがとう。町中には居酒屋がある。

勝ち馬のネタです。タモティーモが穴です。ネタですよ。ブラウン，それにノーランです。ネタです。いいですか。【これから始まる競馬についての朝のラジオからの声？】

そこでは天が積雲と巻雲と乱雲を選んで浮かべているが，描きたいという欲求の矢は奥地の湖水の中心を突き刺している。その地域全体のなかでポプラが一番多い森林は，今育まれつつあり，ピクニックに夢中な人間の必需品として頻繁に役立っている。すべての上昇する水蒸気と下降する水蒸気の間，また我々がその下で働いている雲のような霧と，我々がその下で労働している霧のような雲との間というぼんやりした状況では，そうした状況に対してするべき事をしておけ。そうすれば，その場所を指し示すことを除いて，前に起こった事柄に，後になって起こることで生じる事態を非常に多く書き加えても益はないと感じられるのだ。ただしかし言っておくことは，海に住む老人と空のなかの老婆が，今の周囲の様相について何も語らなくとも，パントマイムがその要旨を伝えるのと同じように，[600] 彼らは人喰い人種の王様から農場の馬に至るまで誰に対しても嘘を言っておらず，この陰鬱な世界において，父なる時間も母なる空間も，松葉杖をつきながらもどうにか暮らしをたてていることを我々に思い起こさせるだけなのだ。このことは，路地にたむろするすべての子供たちが知っていることだ。今後。【丘と谷の今の様相について記そうとしても，霧でぼんやりしているだけであまり益はない。】

数多くの鯉が泳いでいる川のよどみ，アンナ・リヴィアの川のよどみだ。魚座デルタと射手座デルタの二つに挟まれた，草地の縁をもつ，果汁のような水地だ。ここで我々はかつて水浴びをした。谷状になっている水底には，彼女の川からやってきたヒメハヤが泳いでいる。浅瀬にこね土の橋ができている生命の川だ。ダブリンのフィンとアンの霊が出現し，再生し，具現化した川だ。ダブリンは異邦人，呪われた人種，アイリッシュ海・モイル海の海賊の王国。これはこのままに放っておけ。このダブリンでアルベルト・ニアンザはヴィクトリア・ニアンザを追いかけていたが，彼女ーリフィー・フォールを見初めてしまった。そして砕土機は初めて土をすき返した。そっと入って。立たせながら捕らえた。神業の一撃！(ちなみにこのことが起こったのは，ゲイン聖堂の前だったと考えられている。というのは，この景勝地でこうしたことは起こるに違いないからだ。とはいえ先代コーネル・ハウスのずっと後のその女相続人は，西に数時間行って，ラッパ銃のような亀頭を跳ね上がらせているドウィア・オマイケルの腰の広がりの上に戻ることになるのだが。そして彼の亀頭はずっと後まで彼女を切り開いていった。) そこではニレの木が生長し始め，ラブシートの衝立と考えられている。知っての通り，彼女はこれを本質的に彼が出した法として，使うことを遵守するはずであり，そうなると皆もそうする。それは白色に塗られている。そして彼女の小さな白いブルーマー姿は，洗濯女風の装いで，ダブリンのガキたちを馬鹿騒ぎさせる。今であったら税を免除されて，馬鹿安く英国まで行けるので，もしそうしたら我々の祖先は彼女のことをまさにサクソン的だと思っただろう。大昔からの石版もあるが，これはこのよどみの中に唯一あるものである。この白いアルフレッドと書かれた石板は，むき出しで丸く，自慢げにたわみつつ，【水の中で】震えているので，バリンデンの肉屋用エプロンを少なくとも掛けた方がいい。HCE だ！ラムベイ島にある彼の名物の居酒屋。老婆のような目をしている。プフィー。口笛を吹く。しかし光と陰があちこちでうごめくとき，この恥知らずのウィスキー飲みの植えつけ屋は，聖パトリックと自分のかわいい妻に，上手な下層のアイルランド語で，ああ，この場所は俺に似合った場所だ，と語っている。祝日も彼は，聖体拝領を司る枢機卿が平日働くように働く。聖なる秘跡を祝福し続けるであろう彼は，メイン島からの巡礼者に心を打たれて，人目でそれと分かる身なりで棕櫚の葉におおわれた小屋に閉じこもり，[601] その勤めを順調に行かせようとする。彼は裸体のヨガの聖職者であり，太陽光線のチリを衣服とし，その外套は棕櫚の葉で飾られ，未来永劫に流れる川である彼女に求婚した。水の儀式を彼女が執り行っているときに。プファッ！

しかるべき形でそれを生じさせよ。市民よ，見よ，それはアイルランドの地下の水脈の眠りから，小さな泉を経て古の湖となろう。あの偉大な湖に。イシスの町が出現する (ついには！)。

湖だ！

誰だ！おや，愛すべき娘たちか？フェニキアの女神たちよ。地上の嘆息は天へと昇る。

丘の上の娘たち，崖際の娘たちは応える。サムファイアの生えた海岸線に沿って長く。そこにいるのね，とあちこちで声が飛び交う。好きであればあるほど近くに。瓜二つの娘たち。一家族の，一集団の，一つの学校の，そして一つの氏族の娘たち。29 人の娘たち。それぞれの姿は，似通いながらも異なっている。まさに花びらのついた鐘状の花だ。彼女たちはボタニー・ベイの周りで祝歌を合唱している。純粋無垢で愛らしき娘たちの夢の的。ケヴィン！ケヴィン！そして彼女たちは声を合わせ，ケヴィン！と歌っている。彼。彼だけ。かわいい彼。アア！娘たち全体が一族となり歌を。アア！

聖ウィリアム，聖ガーディナー，聖フィブスバラ，聖ウェストランド・ロウ，聖クラレンドン，聖イマキュレイト，聖ダラー・ドルフィン，聖ポーランド・ロウ，聖アラン・キー，聖アダム・アンド・イヴ，聖ラスマインズ，聖ドラムコンドラ，聖ユニヴァーシティ，聖マウント・アーガス，聖ミシャン・ラ・ヴァルス，聖チャーチ，聖クロンズキー，聖ベッラヴィスタ，聖サンディマウント，聖リングセンド，聖ハディントン・ロード，聖グラスネヴィン，聖ホワイト・フライア，聖トマス・ア・ベケット，そして (それは震えている！声も立てずに！！小刻みに！！！) 聖ローレンス・オテュール！

我々のために祈ってくれ！我々のために祈ってくれ！

オオ，この人物はこのように名付けられるであろう！

娘たちは声を合わせてケヴィンに言った。幹の祠のベッドから起きて輝いて下さい。キャサリンはもう台所で朝食の準備をしているわ。悲しみを投げ捨てて下さい，私を悲しませる人よ！あなたはあらゆる群島に水を行き渡らせるために，本土から水を引いてこなければならないわ。新しい国に行って私たちの国を見捨てたワラビー・バイ・トランという星占い師は，あなたが今私たちを治める人であると請け合ったのよ。ミレネシアが待っているわ。テキパキとやってね。

[602] 少しもしなやかでほっそりしておらず，しなやかでほっそりしている箇所の近くは少しも幅広く丸みを帯びておらず，幅広く丸みを帯びている部分の風下側は，少しも中位の大きさでもふっくりした顔立ちでもなく，実際は，実際巻き髪で，申し分なく均整のとれた，花のようなそばかすのある，形のよい，赤みがかった，繊細な顔つきが，中位の大きさでふっくりした顔立ちの風上側を支配している。

ケヴィンの容姿に対して何か好ましいことが言われようとするとき，その評判はすでに広まっていたのか。またケヴィンは，ともかくも男性の美貌全体を集約しているような特別の人物か。

ケヴィンは何をしているのか。彼の消息をはっきりと言ってくれ。お節介焼きが。いまだ彼の道徳上のやり方が彼の一番の武器か。もう少し金をもうけることを目指してみたらどうか。大酒樽を飲み干す彼はそのようなものは集めない。あれはものを問うシェムの声だ。彼の顔は息子らしい顔だ。ジェラマ【シェム】よ，君の広間を静かな広間にしておいてくれ。一人の乙女が，唯一人君が死んだら哀悼の意を表してくれるだろう。ものを問う声は静かになりつつある。しかしクローナが遠くにある。歌に出てくる「灰色の谷のオドワイア」であるあのトンマ野郎【ケヴィン＝ショーン】は，大麦の草むらとなっている貧困者用の墓地全域を怖がり，恐怖の泣き声を出そうとする。インデペンダント紙の記者である「マイク」・ポートランドの取材を明日の朝受けると，郵便屋のお休み所－問題のこのけち男はこう呼ばれている－は，ダブリン・ガゼット紙の今度の号のための取材をも受け入れる。どの新聞社であろうと記者からの取材を受ける。最後の審判の日まで，南北バゴット通りの背中にこぶのあるボス，エアウィッカーが，どこにいようと長寿を全うしますように。このような具合にヴァアリー・テンプルで【彼は】葬式ごっこをやった。サタディー・ナイト・ポスト紙は，写真機が映し出す間抜け男の漫画のような姿を載せた。おそらくアメリカのギャング，ダッチ・シュルツの最後の姿のようであろう。彼は大風呂敷を広げて話を終える。パブで昔話を打ち明ける。最後は怒り出す。他の客たちを教会にいるかのように黙らせてしまう。皆をグデングデンの姿にしてしまう。美しい風景を背にした映画の一コマの中の映画俳優だ。哀愁に満ちている。何年もむかし，霧のロンドンからキャラバンルートを使い，星々の中でも舵取り役の北極星を目印に，波の柔らかな光の中を，その波の光を信じて，真の泥炭を踏みしめ，この女漁りはダブリンにやってきた。舞踏会から跳び回りながら家に帰る乙女たちに出会いたいと常に心の中で思いながら，歓呼を受けたこの氏は。巧みに作られた切りポケットに鍵を入れ，可もなし不可もなしのアイルランド人として，凍ったオールドパーをしこたま飲み，食事に夜までガチョウ，エンドウ豆，カラス麦を食べて満腹となり，何度も女に欲情し，[603] しかし日や月の光の中で，卵形の唇に招き寄せるような微笑みを浮かべている。郵便屋よ，思うにここでは君を歓待してくれる。以前よりもこんなに成長した！考えることは全く正しく，体もピンピンしている！素晴らしい！聞け！郵便配達人のショーンよ！何をぼんやり考えているのだ。君においしいお茶を出すことにしよう。我々のパンを焼くパン職人にしてみれば，やはりバッチローフの山高パンだ。アア，何とかぐわしい香りか。バターだ。バターをよこせ！今日，日毎の手紙の入ったバッグを

持ってきてくれ。私宛ての手紙よ，暗く長い冬の退屈から私を救ってくれ。というのもその生活は，ケワタガモの羽布団をかぶって寝てばかりいる生活であるが，この手紙には，郵政公社総裁になろうとしている勤勉で，いつも素面の，切手をしっかりと貼り，ちゃんと封をする役人たちが，思い出にと，妻の代わりにたらしこんだ少女と一晩枕をともにしたときに，たいてい彼女に口にする文句が，歌い手によって歌にされるように，書かれてあるからだ。彼は長い道のり，手紙を配り歩く忠実な働き手だ。時刻が分かるかい【原文の発音はハヴ　ユー　ザ　タイム】。もう一度言ってくれ，君。あの罪について耳にしたことがあるかい【原文の発音はハード　ユー　ザ　クライム】。確かなことだが，あの男は酪農場の初な淑女たちに手を出したのだ。人に知れずに会う女の子であれ，年増じみた女の子であれ，スペイン人であれ，お茶の時間に来る女の子であれ，陰の多い女の子であれ，夜に出歩く女の子であれ，サモア人であれ，七人の少女に手を出した。むっちりとしていてグラマラスで，その上頭が弱くてピチピチしていたなら，パイプを使ったり，苦悶を伴うことをしながら，あの子もこの子も，他のフットボールのような女の子でも，鼻先がよじれた女の子でも手を出した。罪を犯して堕落した後，彼が逃げ出すのを人は目にしていたが，このときグレート・チャールズ通りのチャート博士が，一気に彼の背骨を治した。彼は足に関しても顔に関しても衰えてはいなかったが，しかしその行動の中でキスすることについてはーこれは合法的なことだがー多少なりともあたりが暗くなってからにしていたであろう。このことは鹿だけが見ていたのだし，また暗闇だけがその結末をかぎ取っている。これがダブリンなのだ。何と言うことだ。売春婦に対してはためらいがあったが！若い豊満な体の女たちとは一度ならず，美人局もやった。これはカトリック教会の門をたたくべき侮辱行為であり，誰かがその償いをしなければならない。あの忌々しい愚かな奴はどこにいるのか。あの警察の犬は。あの犬野郎は善良な人たちをたぶらかそうとする。多くの人の中でも我々の愛するあの男はどこにいるのか。

しかしケヴィンは，あの悪童は何をしているのか。ごつごつした岩山に登ったあの新参者は。彼を描いた青みがかった灰色のステンドグラスの，九日間の祈りについての壁画壁だけが，かすかながら彼の伝説に光を投げかけ始めている。このステンドグラスの燐の光に語らせよ。それで結構だ。[604] 彼を見た者は次のような決まり文句を言うはずだ。彼を捕らえるには早く走らなければならないと。私のジェリーよ，もうこれ以上尋ねるな，問う声を出すな。彼は悪童ではない。花束を手に入れた神たる男子だ。フィネガンの開拓したテフィアの土地がある。その土地のあるフィネガンの出身地ブレジアの草原を治めたアイルランドの伝説上の創建者へレモンとヒーバーの葡萄の木の枝は緑のままで，立派に実を付けている。しかし早起きをした者たちのために，居酒屋が開くことはまだない。ヒギンズ，ケインズ，イーゲンらの学問書でも読んでいろ。マルサスはまだ押入に入れてある。その中に。古文書にはどんなに答えがつまっていることか。大酒飲みたちはまだうろついている。レモンソーダの中の祝い酒の味となる竹酸塩は吸収が早いだろう。そうした酒は亜鉛の入った木枠満載の頑丈なトラックの動力にさえならないのか，と君はつぶやく。確かにそうではない。そう言えば大英連邦鉄道は，まもなく最初の汽笛を一回だけ鳴らしてスムーズに走り出すであろう。切符を買って乗る紫色の車体の各駅停車の列車は動いていないが，多くのバスが，数え切れないくらいのポテトを載せて走っている。また年配者たちが一番便がいい苺色のバスとして覚えている市街電車も走っている。そしてまた，荷馬車も，今はまだ動いていないものの，夜大騒ぎした後でも素早く動き出すはずである。待ってくれ，もの問うシャムよ。いや静かにしてくれ。そして！ HCE だ。夜が明けるとまず彼の姿にお目にかかれる。この場に居合わせない者も，その姿を心の中で上映するであろう。

ああ，そうだ，そうだ，まさにそうだ。今の私【ケヴィン】は悪名高い，もったいぶった，人と交わらないガリアの大司教。これから厳しい警告を与えようとしている。アイルランドの大小の島の住民，そして東西水路上にある数多くの島の住民に。

（注）

『フィネガンズ・ウェイク』 の原典は，James Joyce, *Finnegans Wake* (New York, Viking Press, 1947) を使用した。本文中の [　] 内の数字は，*Finnegans Wake* の原典のページを表す。【　】内の日本語は，該当個所の内容を筆者なりに解説したものである。(　) 内の日本語は，原典の（　）内を訳したものである。参考文献としては，以下の書を使用した。

1. Campbell, Joseph and Henry Morton Robinson. *A Skeleton Key to Finnegans Wake.*; New York: Viking Press, 1944
2. Rose, Danis and John O'Hanlon, *Understanding Finnegans Wake; A Guide to the Narrative of James Joyce's Masterpiece*. New York: Garland Publishing, 1982
3. McHugh, Roland. *Annotations to Finnegans Wake*. Revised ed. Baltimore and London: Johns Hopkins University Press, 1991.
4. Glasheen, *Adaline. A Third Census of Finnegans Wake*. Evanston: Northwestern University Press, 1963.
5. Mink, Louis O. *A Finnegans Wake Gazetteer*. Bloomington and London: Indiana University Press, 1978.
6. 柳瀬尚紀訳，『フィネガンズ・ウェイク』I，II，III，IV 河出書房新社，1991 年
7. 宮田恭子訳，『抄訳，フィネガンズ・ウェイク』集英社，2004 年

『フィネガンズ・ウェイク』第４部の概要 (1)
(p.593 l.1~p.604 l.26)

大島　由紀夫

（東京海洋大学海洋工学部海事システム工学科）

要旨：　ジェイムズ・ジョイス著『フィネガンズ・ウェイク』の第４部の 593 ページ１行目から 604 ページの 26 行目までを訳出した。逐語的に訳した所もあるが，内容をくみとりながらその主意を表した所もあり，「概要」といった題名にした。この訳出した箇所では，この小説の設定場所のダブリンの周囲に太陽が現れ，日が射す朝の情景から，主人公の HCE の属性と彼の就寝の様相，また息子の Shaun の属性等までが描かれてある。

キーワード：フィネガンズ・ウェイク，第４部，概要